

講義名	財政学		
科目区分	展開		
担当教員	三原 裕子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限	授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2019年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
税金は、我々が日常生活を送る上で非常に密接なものです。しかし、税金は出来れば払いたくなく、その負担を重く感じる事があります。一方で、税金のおかげで我々は様々な公共財やサービスを享受でき、我々の生活を便利なものにしてくれています。本講義では、国の活動のうち支出に着目し、それが抱える課題や解決策などについて理解することを目的とします。

到達目標
経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事が判断できるための力を養う。 新聞記事を読み、自分自身で政策の効果が評価できるようになるための知識を身につける。

提出課題
課題については講義中に適宜指示をします。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
小テストや宿題は次回の講義始めに解説を行います。

評価の基準
小テスト30%、大試験70%により成績を評価し60点以上を合格とします。 大試験は試験の後半に実施します。 (ただし、15回の全講義が代替授業へ切り替わった場合、大試験を複数回実施する課題（試験も含む）に変更する場合があります。)

履修にあたっての注意・助言他
講義中の録音 / 録画 / 撮影は原則禁止します。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可します。

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
講義中にレジュメを配布します。 主な参考文献 ・小堀隆士『コア・テキスト 財政学』新世社、2002 ・畑豊悦夫・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008 ・加藤久和『人口経済学』日経文庫(1160)、2007 その他参考文献については授業中に適宜紹介します。

授業計画
1. 財政とは何か 2. 資源配分機能 3. 所得再分配機能 4. 経済安定化機能 5. マクロ財政政策 6. 公共財(1) 公共財の定義 7. 公共財(2) リンダール均衡 8. 我々の生活と社会保障制度 9. 日本の育児支援制度 10. 待機児童問題を経済学の観点から考察する(1) 11. 待機児童問題を経済学の観点から考察する(2) 12. 日本の年金制度とその問題点 13. 事前積立方式(1) 14. 事前積立方式(2) 15. まとめ

到達目標
経済学の基礎的な知識を身に付け、理論的に物事が判断できるための力を養う。 新聞記事を読み、自分自身で政策の効果が評価できるようになるための知識を身につける。

授業形態（アクティブ・ラーニング）
ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
1. 財政の関連する新聞記事を探してみる（45分程度） 2. 家族間のお金の流れについて考えてみる（45分程度） 3. 自身の生活に深く関連のある社会保障制度について調べてみる（1時間程度） 4. 景気と財政とのかかわりを調べてみる（1時間程度） 5. 政府が行う経済政策について調べてみる（1時間程度） 6. 身近な公共財について調べてみる（1時間程度） 7. 配布した資料を読み、わからない箇所にチェックをしておく（1時間程度） 8. 第3回目の資料を読み直しておく（50分程度） 9. 日本の子育て支援制度について調べておく（50分程度） 10. 配布した資料を読み、わからない箇所にチェックをしておく（1時間程度）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
受講生の理解度に応じて、授業の内容・進め具合を変更する場合があります。 今年度前期については、補講日に授業を行う可能性があるため、予定をあけておいてください。